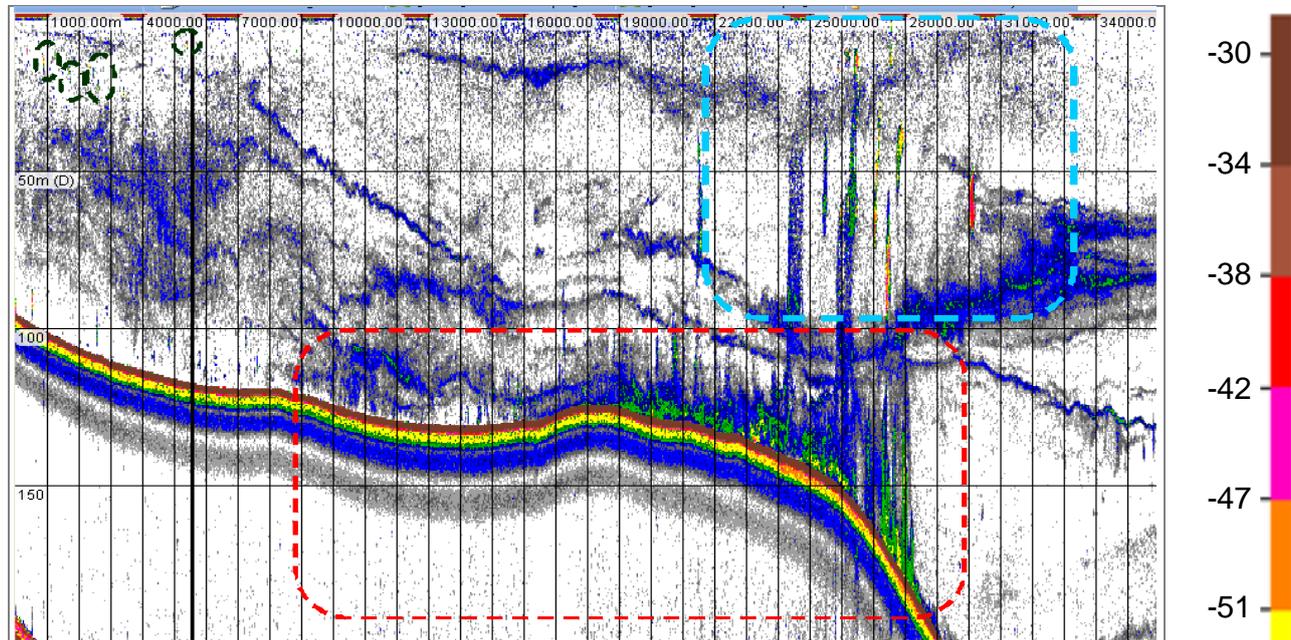


反応構成生物： マサバ (*Scomber japonicus*), ゴマサバ (*Scomber australasicus*),
スルメイカ (*Todarodes pacificus*), カタクチイワシ (*Engraulis japonicus*)

収録日時：1997年8月31日 (昼間 13:10~15:38)

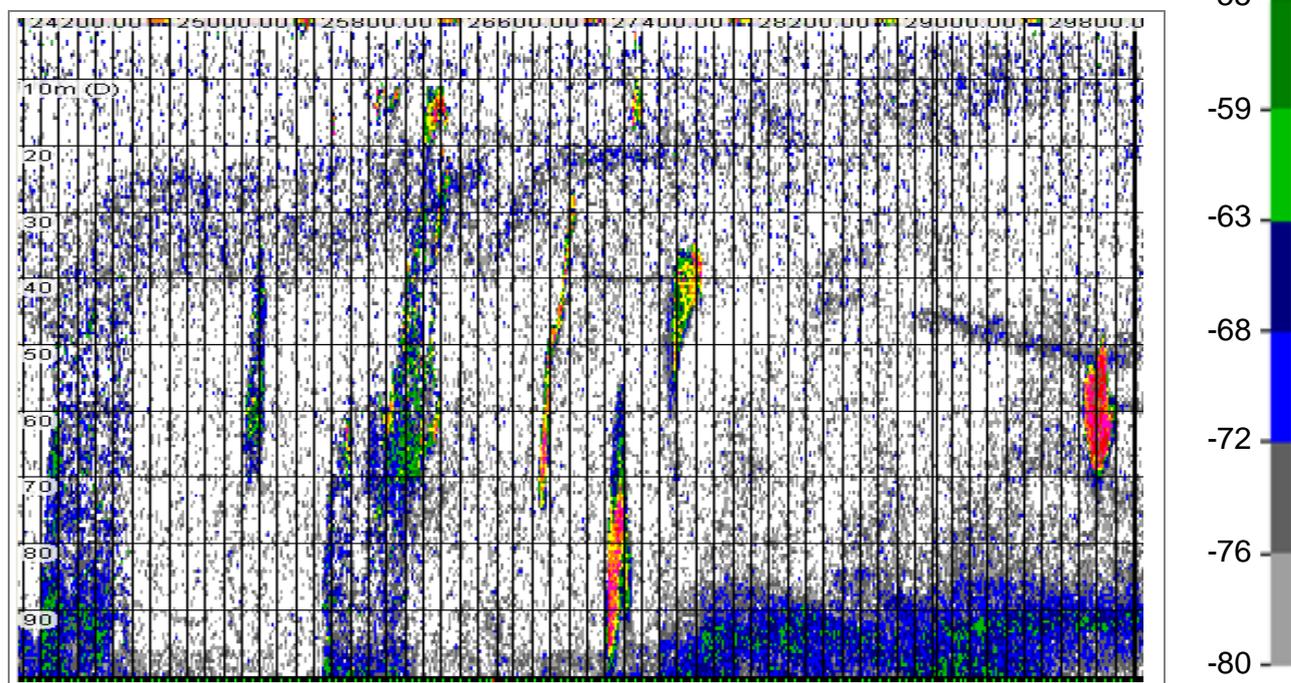
収録海域：太平洋, 東北沖

収録機種・周波数：KFC2000・38 kHz



(水色破線部：サバ類, 赤破線部：スルメイカ, 深緑破線部：カタクチイワシ)

Echogram-1 38 kHz



(Echogram-1 水色破線部の拡大)

Echogram-2 38 kHz

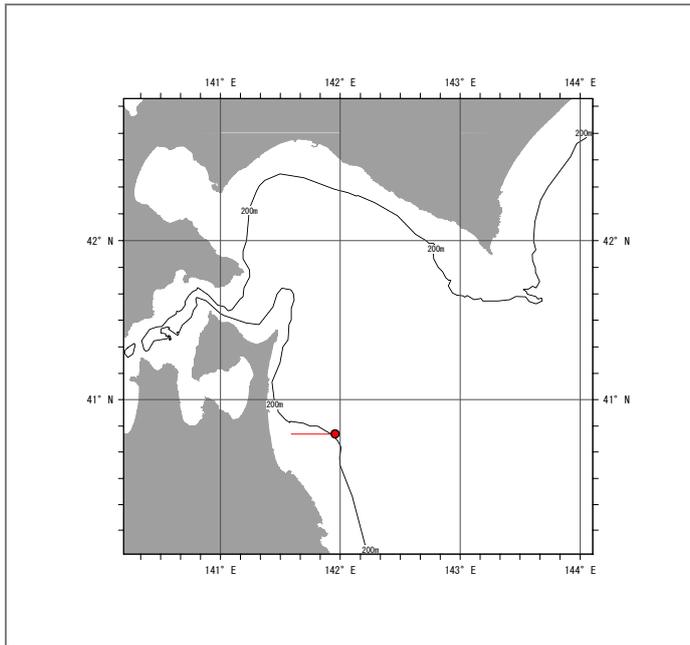
表示スケール： 縦 200 m/横 35000 m (Echogram-1), 縦 100 m/横 6000 m (Echogram-2)

グリッド間隔： 縦 50 m/横 1000 m (Echogram-1), 縦 10 m/横 100 m (Echogram-2)

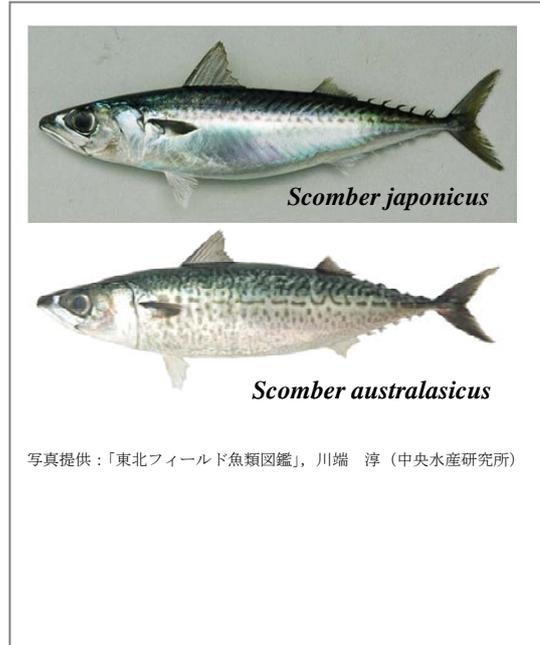
表示色・表示S_v範囲： EK500color ・ -80 ~ -30 dB

データ提供：中央水産研究所 資源動態研究室 (川端 淳), 若鷹丸

収録海域詳細↓



反応構成生物写真・イラスト↓



魚種確認の有無・対象生物判別の根拠

サバまき網，スルメイカイカ釣り・沖合底曳網漁場で反応が確認されたこと。
海底付近の同様のエコーについては，別の日にオッタトロールや釣獲試験によるサンプリングやROV 観察を実施して魚種（スルメイカ）を確認している。

サンプリング詳細情報・備考

1997 年はサバ（水色破線部）・スルメイカ（赤破線部）の資源状態が良く，八戸沖の陸棚斜面上に漁場が形成されていた。捕食者を避けてか，カタクチイワシ（深緑破線部）の反応は，すこし距離の離れた沿岸域で認められた。スルメイカの反応は 91 ページに拡大したエコーグラムを示している。